

## 2020年度スローガン

# 成長

～稲城のために考え・実行する人・組織へ～

2020年度 稲城青年会議所  
第45代理事長 福島 善広

### 【はじめに】

2020年度、稲城青年会議所は創立45周年を迎えます。  
設立当時より稲城の諸問題に対し初代理事長・大河原先輩をはじめとする志高き先輩諸兄の手によって稲城青年会議所の歴史は始まりました。それから45年、歴代理事長をはじめとする先輩諸兄姉の皆様が、この活動を一度も絶やさずご尽力し続け、稲城を想う気持ちが受け継がれてきたからこそ、今日の稲城青年会議所があり、その活動にご理解・ご協力いただきました行政・関係諸団体・市民の皆様のお力添えで45周年を迎えることができました。

この感謝の気持ちを忘れず、本年度は青年会議所の活動の基本である三信条を私なりに「修練」＝ひとづくり・「奉仕」＝まちづくり・友情＝なかもづくりと解釈し、この密接した3本の柱を基に、稲城をよりよく変革し続ける組織となるために、「成長～稲城のために考え、実行する人・組織へ～」をスローガンに運動を展開してまいります。

### 【ひとづくり】

～稲城を担うリーダーとなるために～

稲城青年会議所はこれまで、地域を担うリーダーとして魅力ある多くの先輩方を輩出してきました。そして私達も先輩方のように、稲城を牽引する力強いリーダーとなるために常に自己研鑽に励み、稲城をよりよく変革する運動を続けて行かなければなりません。

しかし、日々の仕事に追われながらも運動を続ける意味があるのか、多くの時間と費用を費やした事業が本当に稲城に必要とされているのか分からないなど、自問自答を繰り返し疑心暗鬼になりながら運動を続けているメンバーもい

ます。

確固たる信念をもって運動を続けていくためには、メンバーが改めて青年会議所の存在意義を確認し、自分自身と向き合い、自らを確立することが大事であり、明確な目的意識をもって稲城の問題に対して取り組む必要があります。

そして稲城に対し興味や関心を高め、主体的にこのまちの為に行動できる人材へと成長することが、この稲城の為にとなる「ひとづくり」になると考えます。

現状に満足せず、青年会議所にしかできないこと、青年会議所だからできることに本気で挑戦し続け、稲城をよりよく変革する「ひと」へと成長し稲城になくしてはならない、本当に必要とされる「組織」を目指します。

### 【まちづくり】

～まちの魅力をつたえる～

稲城は多摩丘陵の豊かな緑が残る、自然に恵まれたまちです。また、梨・葡萄の産地としても有名であり、私の地元百村（もむら）の妙見尊で行われる蛇より行事は東京都無形民俗文化財に指定されており、古くからの伝統や文化が多く伝承されているまちでもあります。

そんな多くの魅力を稲城に住む人に知っていただき、自分の住むまちに愛着を持っていただくことが、まちを考えるきっかけとなり、自分たちのまちは自分たちでつくるという意識に繋がり積極的にまちづくりに参加していただくと考えます。

また、稲城青年会議所では過去に稲城で育つ子供たちの為に、郷土愛と地域の歴史に対する誇りを育むため「稲城かるた」を発行しました。かるたには、稲城の歴史、旧跡などが網羅されており楽しみながら稲城を知ることができます。

今年、45周年の節目の年として先輩方に感謝を表すとともに、「稲城かるた」をより身近なものとして市民の方に使っていただき稲城の歴史・誇りを知り稲城を思う愛着へとつなぐ、稲城かるたの再版並びに活用企画事業を展開いたします。

～次世代を担う子供たちのために～

稲城の次世代を担っていくのはいうまでもなく子供たちであり、稲城の未来のまちづくりは子供たちの育成にかかっているとと言っても過言ではありません。しかし、現代の子供たちは、既成概念にしばられない柔軟な考え方、新しいものを取り入れる積極性などのプラス面が見られる反面、忍耐力がない、自己中心的で他人に対する思いやりに欠けている、何事に対しても感性が乏しく冷めているなど、子供たちを取り巻く社会環境の変化を受けた課題も生じています。

稲城青年会議所はわんぱく相撲大会を通じて、毎年多くの子供たちに「礼節」「思いやりの心」「向上心」などを感じてもらい、豊かな心を育み健やかに育つ環境に寄与する事業を行ってきました。本年度はさらに多くの子供達と共に大会を開催し参加者そして保護者とが一体感を感じていただけるような設えを準備し稲城の次世代を担う子供たちの豊かな心とこのまちでの思い出をつくってまいります。

#### ～防災～

近年、全国各地で地震、台風、集中豪雨など自然災害が多く発生し、甚大な被害を各地にもたらしており、この稲城でも台風で非難をされた方、土砂崩れなどによる被害を受けた方がいらっしゃいました。今、多くの市民が防災について高い関心を寄せています。

災害から身を守るためには、自分の身は自ら守る『自助』の力はもちろんのこと、災害時に隣近所で助けあい、自分たちの地域は自分たちで守るという「互助」そして「共助」の精神が大切となってきます。そのためには、地域でのつながりが重要であり、市民の方に改めて地域との関係性を確認してもらい、有事の際に互いに協力し助け合う関係性を構築する為の運動を展開いたします。

また、私たち稲城青年会議所は、社会福祉法人稲城市社会福祉協議会と、2017年に「災害ボランティアセンター設置・運営の協力に関する協定」を結びました。具体的な内容はボランティアセンターの運営ですが、その際、災害の状況や被災地域に合わせたニーズの把握など土地勘をもつ多くの人が必要となりOB会の諸先輩方との連携も必要不可欠となってきます。本年度も稲城市社会福祉協議会そしてOB会と連携して訓練を行い、有事の際にスムーズに対応できるよう準備を行ってまいります。

## 【なかまづくり】

～心が通じ合うなかまづくり～

青年会議所は年齢・職業関係なく本当の「なかま」をつくることができます。それは青年会議所が自己の為でなく他人の為に責任をもち行動することができる人物が集まる場所であり、運動を通して事業を構築する楽しさ、それとは逆に事業を生む苦しみや失敗、それらを乗り越え最後までやり遂げた時の達成感を共有できるからこそ「なかま」と呼べるのではないのでしょうか。

稲城青年会議所には個性豊かなメンバーが揃っています。このメンバーが一丸となり稲城のために考え・実行することができれば必ず稲城をよりよく変えることができると信じています。

本年度はこの繋がりをさらに深めるために、メンバー間の交流を積極的に行い、お互いを知り絆を深めてまいります。そこから仲間に寄り添う心を育みお互いを尊重しながらも本音を語り議論する、そんな心を通じ合わせる事ができる環境を構築してまいります。

～会員拡大～

我々は常に会員拡大を行う必要があります。なぜならば会員拡大とは、単に組織を維持するために行う運動ではなく、まちづくりに貢献し、地域を牽引するリーダーを増やす、稲城を「明るい豊かな社会」へ導くための運動だからです。

また、組織にとっても多種多様な価値観を持った人を増やすことができれば組織としての幅が広がり、その一員である個人の成長の機会にも繋がります。我々はこの地域の未来のために行動できる仲間を増やし、より大きな運動を展開していくためにも今以上に会員拡大を推進していく必要があります。

そのために稲城に必要とされる運動を市民に発信していく必要があります、メンバー一人一人が自らの言葉で青年会議所の魅力を伝えられる存在となる必要があります。会員拡大を全メンバーで自分ごとと捉え一丸となって取組んでまいります。

## 【結びに】

私は、2017年に稲城青年会議所にご縁をいただき入会しました。入会当

初は、受動的で言われたことだけやり、稲城の為になることよりも自分の好きなことを優先に行動していた気がします。

しかし、先輩方が活動する姿や多くの仲間との出会い、そして入会以降様々な役職を与えていただき経験を積むことで、稲城をよりよくする運動はひいては自分の為、稲城に住む家族のためにつながる運動だと気づき、当事者意識をもって運動に臨むことができるようになりました。そして今年、理事長という役職を担うことは、私にとって大きな挑戦であり、またとない成長の機会だと感じています。

この機会を与えてくれたメンバーと常に傍で支え青年会議所運動に送り出してくれる家族の為に決意と覚悟を持って行動してまいります。

そして稲城青年会議所が本当に稲城に必要とされる組織として成長できるよう、メンバーと共に全力で邁進して参りますので一年間皆様のご理解とご支援、ご協力宜しくお願い致します。